

五、脳死状態の意識の中で

(ページ「脳死」参照)

以前、警察の方が仰っていましたよね、

「人間の死は、心臓が停止した時であると法律で決められております」

——あれが本当ですね。脳死の人は、まだ生きているんですよ。生きているから身体が動いている訳です。

脳死の人でも、それから少し生きたら、その中で、心を通して、何かしら吸収しようと思っているんですよ。終わりの時が来るまで、心の中でやっているんです。

凄いですよ、人間というものは——。

それを、「この人は死んでも同然だ」とやるのは、私は反対ですね。

心臓が止まるまでやってるんですね……。

ところが、今度はもう駄目なのに、無理矢理に生かされる人もいるんですよ、いろんな治療をされて……。

こういう人は、人生でやるべき事をやらずにきた人が、そういうふうになることがあります。これは大変ですよ。辛いですよ。

何だか分からない病気で、医者が診ても分からなくて、そのままフラク生きていくというのは、大概それが多いんですよ。こうならないようにしなければいけないですね。

だけど、考えてみたら人間は哀れですよ。中には、一年も二年も三年も……寝ていたり、今度は看病している人が病気になるりそうだという人もいますね。

最後に首を絞めて殺してしまった——なんていう人も出て来る。人間ぐらい哀れなものはないんじゃないでしょうか。心を忘れるとそうなるんじゃないでしょうか。

「それじゃ、心をちゃんとしたら、早く死ぬんですか？」

と、そういう事じゃないですよ。(笑)もの見方ですよ。「早く死んじゃえ」と、そういう事を思いたくなるんでしょうねえ。

これは、終わる前に、お医者さんにかかったとしても精々半年ですよ。もし半年以上過ぎたとしたら、「わたしはここで、もう一回やり直さなければいけない事が、何

かあるんじゃないだろうか」と考えた方がいいと思いますよ。

そうしたら、早く終わりますよ。(笑) いや、「死んじやえ」と言っているんじゃないですよ。(笑)

いや大変ですよ、そんな事をして生きていたら……。幾つになっても、「死にたくない」って言うってしまう。

寝たきりになっている人を見ると、「本当に人間は哀れだなあ」と思いますね。だけど、そういう老人達の心の状態観てみると、物凄く学ぶ事が多いんですね。

また、そういう人を、「あれ、この人……」と思って観てみると、本人以外の違う人(次元の違う処の住人)が来て、その人を動かしている場合が多いんですよ。

私達は、そんなふうにならないようにしなければいけない。

もし、そうなったら、どのようにしなければいけないか——ということを知っておかなければいけないですね。

これは何時も申し上げますように、時間が来たなら、幾ら生きたいと思っても、生きられないんですよ。時間が来なかったら、死にたいと思っても死ねない。

これは自分で死ぬのは別ですけど——。だけど自分で死んだら、とんでもない処へ行ってしまふんですよ。そういうふうになっているんです。

早く死にたいという人は、歯を食い縛りなさい——。

今、もう時間が来た人は諦めなさい——。がっかりして諦めるんじゃないくて、「あ、私は終わりなんだな」と思いなさいということですよ。

そうしたらこの前、こんな人いるんですよ、

「先生、家の〇〇は、後どれくらい生きるんでしょうか？」(笑)

「そんな事、知りませんよっ！」(笑)

——そんな事、言っでご覧なさいよ、大変な事になってしまふから……。

しかし、言わなくてはいけない人も中にはいますよ。これまで、三人いるんですよ。高橋信次先生の話を聴いて、一所懸命、心の浄化を図っていった人ですね。

「分かってますか？ あなたは、もう終わりですよ。覚悟を決めてください」

「はい、分かっております」

と、そう言われても、慌てませんでしたね、この三人の方々は……。

人間というのは、その時が来たら、みんな分かるようになっていくんですよ。

そうすると、時・間・が・あ・る・と・い・う・こ・と・で・す・ね。その時までには、終わる時間というものは、中々分からないんですよ。

そうしたら、今のこの一秒というものは、物凄く大事だということです。